夕刊
磐城新聞
七月二日發行
日曜祭日翌日休刊

澤村公遺德 (10)
神谷小學校

五、勝爲公の遺澤

1 灌漑反別及收穫

灌漑反別 小川五四町六反 赤井三町 平窪二〇四町 神谷二二一町三反四畝 草野四五二町四反餘 大浦二六三町三反 大野三九町四反 四倉三町 計一、二四一町四畝

收穫高 小山一、二五五、八石 赤井六〇、〇石 平窪四、四八八、〇石 神谷四、二二六、八石 草野八、一四三、二石 大浦四、二二一、八石 大野七七八、〇石 四倉四八、〇石 計二三、二一二、六石

2 江筋の恩惠を蒙る世帶及家族數

世帶數 小川一三八戸 赤井一〇戸 平窪三一〇戸 神谷四二六戸 草野七四九戸 大浦五六八戸 大野九四戸 四倉二五戸 計二、三二〇戸

家族數 小川八八五人 赤井六〇人 平窪一、九八四人 神谷二、九八三人 草野四、三九二人 大浦三、三八一人 大野三三六人 四倉一五〇人 計一四、一七〇人

3 用水（水車及び火防用水）

水車數 小川一 赤井〇 平窪四 神谷一三 草野八 大浦一 大野一 四倉〇 計二八

火防用水としての狀況 小川腕用ポンプ使用にて約四百戸の用水、ガソリンポンプなれば約六百戸に使用し得、赤井火防用水に關係なし、平窪灌漑溝渠に引水して火防用水となす、神谷江水を共儀使用する外溝渠に引きて火防用水となす。草野村內小溝渠に通水して火防用水をなす、大浦江筋下各部消防組に於て引水し用水となす、大野火防用水に關係なし、四倉火防用水としては水量甚だ少し

六、勝爲公の頌德

1 澤村神社

建立者及び其の動機 小川江筋割頭金賀源三郎氏、木村三十郎氏、室直與氏等は夙に勝爲の德を敬慕し其の偉業の顯彰法を江筋下民と語り合ふこと久しかつたが金賀翁は神社建立の切實なるを思ひ自ら建立趣旨書を作成し之を携へて江筋下各村の有志を歴訪し其の贊意を求めた。然るに世人未だ澤村公の遺澤を感得せずこれに共鳴し贊意を表するものもなかつたが、室直與並に木村三十郎の兩氏のみは双手をあげて之の擧に贊同し晝夜の別なく其の目的達成のため自ら有志を訪問して調印をまとめた。後敎部省の認可を得て明治九年十二月六日遂に其の建立を見ることが出來た

六月題詠 (六)
新妻久滿男選

『雲』

○きれ〴〵に流るゝ雲のかゞやきて、靜かなるとき晝深きなり　金成磐洲子

評 上の句再考。下の句面白し

○日もすがら端山離れぬ入道雲、夕べが來ればいかづちとなる　みゆき

○仄かなる夕雲のいろただ淡き、十八の日の戀にも似たり

はかなかる戀にてありけりほのぼのと、名殘ゆかしき夕ぐもの色。評に代ふ

○愉しげに乳房ふくめりいとし子は、五月の窓にちぎれ雲浮く

上下句の連關に注意

○梅雨氣づく雲のつたりと晝たけて、靜かに人等桑つみて居り　岡田友之

二句すゐかうを要す。佳い歌である

○雨ふふむ雲の動きにひとところ、柿の青葉の光りゆらめく

二句迄と三句以後の內容に何か因果關係でもあるものか『光りゆらめく』といふ結句の意味がはつきりしない

五浦の海 下
山口正夫

そこに天心先生の別邸がある。三方海に面し、青芝を圍り了閑雅な一室は旅客の心をどんなに清純に洗ひざらしたことか

食事は總て一汁一菜主義

夕飯後附近の海や松林を散歩した。風に松籟の嘯きを聽き、磯には奇石怪巖多く浪の突き當つて碎け、白く泡沫と碎けて返る。其の風貌はいつまでも當時のものとして眼前に彷彿される。その夜は篝火を焚いた。島田先生の萬葉の歸議があつた。此のあたりでは『うに』が澤山採れるので『うにの貝燒き』がとても美味しいと山口剛先生は歎賞されてゐた。先生は『燒砂にしみる雨』と云ふ題で小說を書いてみたいなどゝ仰しやられてゐたが、僅か半年程經てから新聞紙上でなくなられた記事を發見して驚いた

千葉省三先生はトテ馬車の中の『遠いラッパ』を讀んできかせた。その中にどこかのお婆さんがすつかり感心してしまつて、先生の童話集を二冊ほど求めて歸へられた。相當の年頃らしいが仲々元氣のいゝお婆さんであつた

鮑はとても美味しかつたが、私は二度ほどそれに中毒を起したか、胃が痛んでせんぶりをせんじて飲んだ

お晝の休みは大てい私は泳いだ。中山省三郎先生が私のわきへきた。鮑は隨分エロチックな形ですねと言ふと面白いことを言ふなあと笑はれた。船で平潟まで行かうとする時、巖の上から島田先生は私のことを、仲々泳げさうだな。すつかり僕の蛙の領分を取つてしまつたなあ等と言つて見送つてゐた。附近の松山にはナデシコ、吾木香、白百合が澤山咲いてゐた

7月3日

△伊豫より白金を獻す（持統帝五）△京濱間に郵便開始（明治四）△商品としての蓄音器初輸入（同二九）△齋藤內閣總辭職（昭和九）△小豆島沖で汽船衝突△平町地下採掘座談會（同一〇）

背戸の日暮
高田琢朗

小雨がはれて
ノッソウリ
背戸に出て來た
とのさま蛙
籔はほんのり
もう日暮

椎の花
恩田松子

椎のお花が
咲きました
今日は朝から
雨ふりで
お庭にぬれる
雀の子
椎のお花は
バラバラと
雀のせなかに
ちりました

梅天 (其ノ一)
珠簑 小野務平

烟䕃雨笠影逡々
苗秀青氈十里長
梅子將黄鶯已老
田家日日挿秧忙

寄贈書目

△國民法律七月號 民衆的法律誌、例によつて相談相手記事滿載（一部金十五錢、東京市芝區二本榎一の四七共社）

小說 高橋是清 (55)
松浦泉三郎作　佐々木今朝吉畫

桑港・オークランド（五）

令孃は、カピテン・ロッジャー家の、一人娘だつた。ロッジャー家は、ブラウン家から三里餘の所にある豪莊な邸宅で、無論近隣に聞えた富豪だつた、そしてブラウン家とは親戚同樣の間柄で絶えず往來し合つてゐた

和喜次は、この令孃を夙くから知つてゐた

令孃の對手が終ると、和喜次は草に足を投出して

『お孃さんは强い。疲れました』

と、愛想笑ひを浮べた。令孃も、側に並んで

『ワキシーも强い。疲れました』

二人は顔を見合つて哄笑した

『ねえ、ワキシー』

ブロンドの髮を弄びながら、碧く澄んだ眸を大きく見開いて、令孃が言つた

『今度私の邸へ、矢張り日本の者が働きに來てよ』

『日本人が？』

和喜次は腰を浮かして

『ホ、ウ！』

『ヤスベ。面白い名前ね』

『ヤスベ。苗字は？』

『スキグチ』

『關口？』

『よく働くので、パパもママも大變氣に入つてゐてよ。私もヤスベに感心して、日本人は皆傑いと思つてゐるの』

『ホ、ウ。何故ですか』

『支那人はお給金全部貯金してゐます。必要な物も買ひません。日本人も貯金します。然し必要な物は買ひます。そして向學心があります。支那人は貯金だけきりありません。ヤスベはこの間初めてお給金戴いて直ぐ買物しました。判りますか？』

『何がです？』

『買物？』

『さあ……』

『ヘボンの辭書よ』

『成程』

『日本人の偉さ、ハッキリこれで判つてよ』

『光榮です』

和喜次は腱の裡の熱くなるのを覺えて、堅苦しく言つた。同時に關口と言ふ人に、是非會ひたい希望を禁じ得なかつた

令孃は明るく笑つて

『まあ、光榮ですなんて……』

『本當に嬉しいんです。異國に來て、同國人へのお褒めの言葉を聞くなんて、こんな嬉しい事は滅多にあるものではありません』

和喜次は、心から言つた

令孃も首肯いて

『私にもその氣持は判つてよ。それからワキシー。ワキシーは乘馬が出來て？』

話頭を轉じた

『得意です』

和喜次は昂然と答へた

『なら、都合が宜くてよ』

『と言ひますと？』

『ワキシーの喜ぶ話』

『判りません』

『日曜毎に邸へ來て欲しいの』

『え、お邸へ？』

『さうよ。ヤスベはまだこの國の言葉が話せないの。ヤスベも難儀。他の者も難儀。だからワキシーに通辯も賴みたいし、ヤスベにこの國の言葉も敎へてあげて欲しいの。どう？』

『承知しました！』

和喜次は喜んで快諾した

『然し御主人に……』

『私からお願ひして、承知して戴いてあるの』

『お孃さん。有難う存じます』

『ほほほ……。私からお賴みしてるんぢやないの』

令孃は滿足らしく、和喜次を顧みて笑ふと、手にしたボールを突然碧空へ思ふさま高く投上げて、それを追ひながらソプラノで唄ひ出してゐた

電話
至急讓り受け度し
（姓名在社）

小店員入用
御希望の方は當店迄御出下さい
平驛前 阿部石炭商店 電話三十七番

廣告

磐城名物 靈峰羊羹
小川郷驛前 平屋賣店

平町南町 大和田醫院 電話一七〇番

僅かの氷で非常に早くよく冷える……
丸ほん冷藏器
御家庭にも御營業にも最も理想的な冷藏器……
今年は外壁の絶縁裝置を特に完全に改良を加へましたので、より一層僅かの氷で非常によく冷える樣になりました、內部の構造にも一大改良を加へましたので排水が良くすべて便利になりました爲に貯藏される期間も延長されました。價格は……精選した材料を完備した製法に依る大量製産の爲め良品を廉價に御提供する事が出來ます。
株式會社 丸ほん商店
營業所 平町三丁目一六 電話三五九番 振替東京二一七二四
製作所 平町新田前 電話一八二番

耳鼻咽喉科專門
醫學士 鈴木正男
平町田町（電話五八番） 藤田女學校前

齒科口腔外科
日本齒科醫學士 鈴木喜政
『入院のお需めに應ず』
（看護婦及ビ見習看護婦募集）
鈴木醫院
內郷村高坂磐炭病院前

〇營業開始〇
……大衆奉仕を……念願とし社會中層の御相手旅館としてやよひ館の名の下に愈々六月六日より營業を開始致しました。
……眺望並に清新……の氣分に於て他に遜色なく旅の御疲れを慰むるに適當な處と存じます。
……室貸を主とし……經營致します故御食事は御自由ですが御望みに依り差上ぐる設備もあります
新築落成
※茶代は勿論申受けません。
何卒御引立の程を願ひます。
平郵便局通り（電七六番）
やよひ館

五十嵐産婦人科醫院
平町新川町一二
醫學博士 五十嵐雄二
電話三七〇番
（入院應需）

耳鼻咽喉科專門
平町田町（電六九一）
病室完備 自炊ノ便アリ
醫學士 山內亨吉
山內醫院

神佛祭葬具一式
造花製造販賣
引物一式取扱
其他旗類一式取扱
博盛堂
店主 松本幸松
平町揺槌小路一番地 電話（呼出）五三五番

夜間診療
胃腸性病 專門
內科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科
（見習看護婦募集）
松村胃腸性病科醫院
（平町南町電話一〇七番）

三井呉服店の夏衣大賣出し
涼味溢るゝ夏の御召物、京呉服、ジョセット、中形……
全店夏の商品豊富大特賣
…七月一日ヨリ……七日間…

獨特のおつとめ品
本染モスリン着尺 金貳圓五拾錢
パラマウント着尺 金貳圓五拾錢
絽男羽織 金貳圓五拾錢
手拭浴衣地 金七拾錢
名古屋帶（仕立上） 金壹圓
ホロかや 金參拾錢
絽丸帶 金參圓五拾錢
絹麻小紋 金參圓
絹ボーラ銘仙 金六圓五拾錢
夏掛フトン仕立上 金壹圓六拾錢

御中元贈答用品大奉仕
御恰好な御値段の商品が豐富に入荷致しました如何樣にも承ります
婦人倶樂部掲載總額壹萬圓大懸賞つき
千代きぬ明石…大賣出し
本染中形陳列會
御贈答に これが一番 御重寶な 商品券
雜貨洋品部新設
御子樣方のパンツ、タオル製品、既製品服地などの新製品豐富に取揃へ大奉仕
かや大賣出し
ほろかや、綿、本麻かや、白かやの別選品を大々的大廉賣致します。
三井呉服店
電話 三八・二八四番

內臓外科一般
外科花柳病科
（入院隨意）
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

「空襲だ」 忽ち平驛を中心に 進行列車の燈火管制

大規模な今秋の演習プラン

今秋九月十一二日の兩日縣下一帶に亘つて行はれる演習は近く配屬將校を經てその細目が各町村に周知されるのでこれにより愈よ具体的計劃が進められる事になつて居る、何せ『一に燈管、二に防火、三に防毒』といふ通り空襲には燈火の管制が第一要件なので秋の演習では燈管は縣内での重要地たる平驛を中心とする鐵道各驛、進行中の列車に於て最も完全な鐵道の燈管を行ふ方針で其他一般の燈管も行はれる

防空演習の方法には甲、乙の二種別があるが、これまで各府縣でしばしば行はれた演習は乙種に屬するもので今秋本縣で擧行するのは甲種であるといふ極めて嚴重な演習でこれまでにない大規模のもので準備も容易でなく巨額の經費を要する譯だ所謂ペ!ジェント式のものでなしに、本當に敵機が襲來した時そのまゝ實戰そのまゝの型に於て防空の演習をする所にこれまでに試みられなかつた特徵があるのだ『これからの戰爭は空襲に始まつて空襲に終る、だから宣戰布告の前から戰爭の全期間にわたつて敵の空襲あるを覺悟せねばならぬ』といふのが演習の建前である

南赤井の合併問題 漸次有望に展開

けふ村會で態度決定か

市制施行を目指して隣接村の合併を急いでゐる平町では昨報の如く最近有望に展開してゐる南赤井部落の併合に關し市制施行調査部長一行は昨一日午後から赤井村役場に猪狩村長と會見種々懇談した結果村長も同部落の地理等から見て大体贊意を示してゐるが未だ初交渉だけに將來の負擔額並に合併の條件等を決定してゐないので村では直に今二日午後から急施村會を開き贊否の熟議を凝らした

東北振興兩社株 夙くも申込殺到

七十七平支店で受付

東北地方に優先配當する事になつた東北振興、同電力兩會社株式各十萬株、合計二十萬株の一般公募に就ては七十七銀行平支店でも來る十四日より申込みを受けるが計劃發表と共に現在早くも三百餘の申込あり今後引續き相當競爭的申込みあるものと見られてゐる

磐女推戴式

正補選手八十名

來る三十日の縣下女子中等校聯合体育大會制覇を目指し精進を續けてゐる磐城高女では今一日選手推戴式を擧行、終つて練習試合を行つた

今回の推戴は補缺選手をも加へ陸上競技一八、庭球二〇、籠球一五、排球二〇の約八十名、出場メンバー發表は一週間後になると

地方米價落調

昨日俵米共販 廿五錢の安

昨一日行つた石城販聯の俵米定期共販は出荷も減量したが相場も中央相場の落調から前回に比し平均二十五錢安値であつた

平一二圓六三錢 大野一二、七六 草野信用一號不調 二號一二、六三 高久 同農會一二、五五 一二、五六 平窪一號一二、六四 二號一二、六四 鹿島一二、七一 小川一二、七〇

出荷左の如し

平七二俵 大野一四九 草野信用一號九〇 二號七三 同農會四二 高久一〇八 平窪一〇〇 二號九八 鹿島五一 小川四五 計八二八俵

田人信組總會

過般設立認可を受けた田人信用組合では三日荷路夫小學校で臨時總會を開きて事業開始の打合せを行ふ

愛する子弟の爲 受持ち先生と語る

けふ第一の父兄會盛況

篠山校長就任後第四回目の平第一小學校父兄懇談會は今二日午前八時より九時四十五分迄各教室實地授業公開、十時より十時四十五分迄講堂に於て校長より『兒童に對する感化の重大性』に就き通俗適切の講話あり更に十一時より正午迄各學年別に受持ちとの間に懇談を交したが回を重ねる毎に有意義な催しとして迎へられ出席は父兄母姉約五百名非常な盛會であつた

兒童に麥藁帽

保護者有志の希望で今夏から使用に決定

懇話會開會前夏季中兒童の麥藁帽使用に關し某有志から篠山校長に希望の申出であつたので講話後校長から一同に諮り滿場の贊成を得直に見積ヶ徵した上購入使用せしむる事になつたが豫定價格三十錢以內位である

平均額以上が九百十戸(一割九分)

平町戸數割大体決る

十一年度賦課額八萬七千四十圓を審議する平町特別税戸數割委員會は昨一日から町内を四方部に分けて開かれてゐるが大体けふ一杯で一通りの審議が終了するので明三日特別委員會を開いて最後の審議をなした上本會議は明後四日午後からであらうと見られてゐる

賦課額は未だ委員會の終了を見ない關係から決定に至らないが大した增減はなく大体原案通りと見て前記分平均額八圓八十一錢以上を納むるものが九百十戸で總賦課戸數四千九百七十八戸の一割八分七厘を占め、殘る四千五十九戸がそれ未滿のものである

依然釜屋王國が筆頭

大体原案通りと見た賦課額は

△平均額以上三十圓未滿六九四戸 △三十圓以上五十圓未滿一〇九戸 △五〇圓以上七〇圓四三戸 △七十圓以上百圓二八戸 △百圓以上二百圓三〇戸 △二百圓以上三百圓六戸 △三百圓以上五百圓四戸 △五百圓以上千圓四戸 △千圓以上一戸

で最高千圓以上は勿論釜屋王國で次の五百圓以上千圓未滿の四戸は八幡小路酒井秀治郎、四丁目百澤易興、番匠町堀江正茂、古鍛冶山崎與三郎の四氏であると

半期百圓以上の納稅者

原案により半期で百圓以上を納むる者の稅額左の如し

一〇九圓長橋町小野園次郎 五六九古鍛冶町山崎與三郎 三六一紺屋町馬目玉彌 四一一鍛冶町吉田由三郎 一一四南町上田耕作 一一三南町織田豊太郎 三七八中町山田文一 一八八大町諸橋敬一郎 二一一大町中野勇吉 一六三一丁目小原喜八 一三九同渡邊貫一 一四六明智榮司 一一六二丁目谷口鑄子 一三六石川トヨ 一九二根本善吉 三六四鈴木堅助 二四六中野庄吉 一二〇永山小平 一三三大谷久藏 一一三馬目勝次郎 一三三佐々木俊男 一七九柏原幸次郎 一二四猪狩嘉平 一一一大津賀善吉 二一七久野ひさ 一三五横山滿藏 九九三四丁目百澤易興 一四九阿部唯次郎 一七七猪狩庄平 三八四平松茂 一二三北五丁目諸橋久太郎 一三〇新川町松崎菊三郎 一三〇松崎長太郎 一二九木村寅次郎 一四九鎌田町岡田千藏 一八三田町五十嵐小平 一一五白銀町吉田禮次郎 一二〇田久忠 二〇九才槌小路阿部政右エ門 二三一江口コウ 六六〇八幡小路酒井秀治郎 七七六番匠町堀江正茂

取引四萬圓

植田市場閉鎖

植田繭市場は二十九日の取引を最後に閉鎖した、今年は勿來市場と合併した關係から出荷八千八百貫、相場平均四圓六十三錢、この購入總價格四萬一千圓である

本社振替貯金口座加入 新聞代及廣告料等の御拂込みに御利用下さい

東京 一〇八、五六五 磐城新聞社

拈華微笑 (今日の問題)

去年町の小學校を出た十五歳の少女が同一の家から十數回に亘る空巢を働き、昨日も例の如く押入つた處を隣人に捕はれ終に共筋に檢擧されるに至つた

×

品もの〻多くは玩具、化粧品、繪本、菓子、稀には現金など何れも子供らしい物のみで其の都度之亦盜んだ小風呂敷で運び出したのだから、兩親にしても普通の注意力があつたなら、ここ迄深入りせぬうちに何とか惡の芽を摘む事が出來たではないかと思はれる

×

一方之亦十五歳の少年が親から盜み出した金で數度南町裏の私娼を漁り悉皆爛れた氣分で東京へ出奔しやうとした處を共筋に發見されたと云ふ事件がある

×

男女十五歳と云へば、蓐の中でお目ざめを欲しがつたり、登校の出がけに一錢の煎餅代を强請る年頃なるに拘らず、この齡で怖るべき女白浪の卵となつたり、人生三五夙くも性の醍醐味を滿喫したりするはウエテキントの『春の目覺め』に出て來る少女ヴエンドラも少年メルヒオールもモーリッツも殆ど顏色無い位な猛烈さである

×

よく男女の中等學校などに行はれる父兄の懇談會などでは單に子女の學業成績などのみに偏倚せず、生理的の推移徵候や心の動向等に就て學校側との間に隔意無き懇談を遂ぐるなどは過渡期の子女を有つ父兄として最も必要な關心であらう

×

何時迄も『ごゝ』だと思つて居るのは大の禁物である。けふ第一の父兄懇話會に方り敢て寸懷を叙する所以である

郡下簡點 執行官及場所區域決定

來月中執行內容

郡下の簡閱點呼は既報の如く八月中各所で行はれるが執行官、場所、區域は左の如く決定した

第四區(執行官步兵少佐柴田龜三郎)

△四日 川前校(川前)以上小野新町署管轄
△五日 赤井第二校(赤井上小川、下小川)
△六日 平第一校(平本籍)
△七日 同(同寄留、平窪)
△八日 好間第一校(好間永戸、箕輪)
△十日 中三坂校(三阪、
澤渡)
△十二日 高坂校(内郷本
籍)
△十三日 同(同寄留)
△十四日 湯本校(湯本)
△十五日 磐崎尋高校(磐崎、渡邊、泉)以上平署管轄
△十六日 入遠野校(入遠野、上遠野)
△十七日 田人校(田人、貝泊、荷路夫、石住)
△十八日 勿來校(勿來、川部)
△二十日 植田校(植田、山田、錦)以上植田署管轄
△廿一日 小名濱校(小名濱、玉川)
△廿二日 江名校(江名、豐間、鹿島)
△廿三日 高久校(高久、夏井、飯野)以上平署管轄

第三區(執行官步兵中佐大井川八郎)

△十一日 四倉校(四倉、大久、久ノ濱)
△十二日 同(大野、大浦、草野)以上四倉署管轄

青沼町長奇禍

昨夜歸町の際に 誤つて列車から落る

平町長青沼鉾太郎氏(七〇)は一日舊平藩主安藤子爵家の葬儀に平安會長として參列のため上京、同日午後十時二十三分平驛着下り急行列車で歸町したが列車が停車したものと誤認し列車の進行する反對の方向に飛び降りたゝめ体の中心を失つてホームと線路の間に轉落、後頭部に深さ骨膜に達する裂傷を負つた外腰部大腿部に打撲傷を負ひ同町市原醫院に入院手術したが經過は良好で全治迄には三週間を要するものと見られてゐる

召集徵發事務檢閱

平署の召集徵發事務檢閱は既報の如く今二日午前九時から同署會議室に於て福島聯隊區本田少佐により行はれた

小娘の空巢泥

平町紺屋町堅山ウタ子(一五)假名―は今年一月から同町一丁目岡田弘成氏宅から十一件其他數件の空巢泥を働き昨一日平署に檢擧された

天氣豫報

小名濱測候所觀測

今晩は北東の風雨、明日は南の風雨

金庫泥の餘罪

共犯關根も捕はる

既報―去月二十二日湯本町笠井土木請負業赤塚乘助方から百餘圓在中の手提金庫を掻つ拂つた西白河郡矢吹町生れ小川勝美(三二)は共犯同郡三神村生れ關根周三(二八)と共に捕はれ目下平署で取調べを進めて居る、小川は今年一月盛岡少年刑務所を出獄して惡友達の關根と共に郡內に流れ込んだもので磐崎村大字馬玉吉田直文方から鍍付金側時計を竊取、これを渡邊村箱崎自轉車店へ十七圓で賣却した外コソ泥二件を自白してゐる

一攫千金を夢見て踏み込んだ惡の道

公金泥小川の罪狀

自分の勤めてゐる郵便局から現金八百圓を盜み出しサンザ遊興して滿洲へ高飛びせんとした處を捕はれた植田町生れ茨城縣磯原町諏訪町居住磯原郵便局員小川長藏(三三)は助川署で取調べの結果、同人の生家は相當の資產家ではあつたが性來遊蕩兒で四ツも年上の妻との間に二人の子女まである身でありながら昨年の四月植田局から磯原局へ轉勤し同年十一月雇から漸く事務員に採用されたが、酒癖が惡かつたゝめ一時は馘首されんとした處同僚の情に依つて助けられ今更ながら妻子ある身のサラリーマンが嫌になり滿洲の植民地へ渡つて一儲けせんと決意し、思案の餘りせめてはその旅費稼ぎと日頃睨んでをつた局の公金に眼を着け二十九日夜非番でありながら宿直であつた同僚の部屋へ遊びに行き掃除の手傳ひなどする內に爲替係の机の抽斗の鍵の締りのないのに乘じ翌日水戸局へ送金する八百圓の公金を掻拂ひ滿洲行の旅費に充て同夜自動車で密かに逃走の途、高萩の待合『一力』に登樓僅かの時間に三十圓餘圓を費消し一時東京へ身を潛め機會を狙つて渡滿せんと企てゝゐたものと判明した

ガ車自殺の身許判る

平局保險係り書記

昨報―神谷村鎌田トンネル內を進行中のガソリンカーに飛び込み自殺を遂げた洋服姿の三十男は取調べの結果、同人が穿いてゐた靴の『志賀』と云ふネームにより平局簡易保險係り書記飯野村上荒川居住志賀宏(三四)と判明した

同人は大正十三年同局に入り昭和七年書記として任官、常に眞面目に勤めてゐたが小心の方で最近妻が產後の肥立ちが惡く平町某病院に入院してゐるので醫療代として多少公金を費ひ込んだものらしく、それを苦にしての自殺と見られてゐるが家庭的に非常に氣の毒なので同僚から同情されてゐる

誘拐魔服罪

清水五郎上訴拋棄

無智の女を欺き周旋屋、料理屋を巧みにも騙した稀代の誘拐魔當時住居不定無職埼玉縣兒玉郡賀美村生れ前科六犯清水五郎(三二)は一昨三十日平支部から營利誘拐詐欺罪で懲役二年を言渡されたが今二日上訴權拋棄服罪宮城刑務所に護送された

山田氏保釋

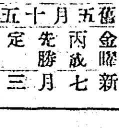
僧侶と未亡人との醜關係を種に恐喝し地方人の耳目を聳動せしめ未決收容中の平町研町一九著述業緣雨事山田政好(四五)は今二日保釋が許され出所した、六月二日以來滿一ケ月の未決拘留生活だつた、なほ次回公判は來る六日午後一時、論告求刑、辯論ある筈

三日

(小名濱測候所發表)

日出 四、二五 月出 後 五、四六
日沒 六、五七 月沒 前 二、三九
滿潮 前 一、一五 後 四、四〇
干潮 前 九、二〇 後 九、二五

舊五月十五日
金曜 丙戌 先勝 定 牛宿
新七月三日



諸判定總帥 東京市本郷區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 ふもとに居ながら山荒れとなり、登り難き如し ▲二黑 陣を布けども戰の機未だ熟せざるが如き日 ▲三碧 知らぬ振りして他事に係るな本分を守り吉 ▲四綠 手順そろうとなりて失策を招く周到用意あれ ▲五黃 小心よく/\として萬事に當るが吉病盜難注意 ▲六白 望まずして福祿の加はる日商談金談凡て吉 ▲七赤 協力旺盛にして事亦成る縁談は吉訴訟は凶 ▲八白 突風の波浪を起す如し船出は見合すが安全 ▲九紫 始めの油斷は最後迄附まとふべし注意

東北興業株式會社 竝ニ 東北振興電力株式會社 株式募集

資本金總額 各金參千萬圓
壹株ノ額面金額 各金五拾圓也
募集株數 各拾萬株
申込株數單位 五株又ハ其ノ倍數
申込證據金 一株ニ付金貳圓五拾錢
申込期間 自昭和十一年七月十四日 至昭和十一年七月十七日 (但シ期間中ト雖モ締切ルコトアルベシ)
募入決定法 應募株數ガ募集株數ヲ超過シタル場合ニハ設立委員ニ於テ適宜割當決定ス
第一回拂込金 金拾貳圓五拾錢
第一回株金拂込期限 昭和十一年八月二十五日
申込取扱銀行 株式會社七十七銀行平支店 電話 二三一番 四一四番